

# 人を自殺に導く関係

## —アメリカのメール殺人から学ぶ—



人間科学部  
臨床心理学科  
准教授  
三國 牧子

### 研究シーズの紹介

インターネットを介したコミュニケーションが私達の生活の中で頻繁に用いられるようになってきています。特に若者の間ではLineやTwitter、InstagramなどのSocial Networking Service（以下SNS）を利用したコミュニケーションが盛んに行われています。そしてこのようなコミュニケーションが多く使われると同時にいくつかの問題点も指摘されるようになってきました。その

一つがインターネットを利用した犯罪です。日本ではSNSを介した犯罪は犯罪として立証されるのが難しいとされています。SNSを介した殺人がアメリカで犯罪として認知されました。被害者はメールや電話を通して自殺を選びました。被害者の弱さを加害者が利用した犯罪でした。



#### SNS コミュニケーション

- SNSコミュニケーションとパーソナリティの関係の不健全さに注目し、コミュニケーションを考えます。



#### 人間関係と犯罪

- 加害者と被害者になってしまう人間関係に注目して、コミュニケーションを考えます。



#### 【事例紹介】

被疑者が黙秘を続けるという困難な状況において、三國准教授は臨床心理士と精神保健福祉士の5人の専門チームを結成、被害者と被疑者の両側面から心理分析を行い、捜査に貢献しました。本案件は、臨床心理士が犯罪捜査に積極的に関わった日本で初めての事例です。本案件（殺人事件）の捜査に関し、専門的な見地から事件の全容解明に寄与したとして、平成28年10月12日、福岡県警察本部より、感謝状が授与されました。

### 期待される活用シーン

- SNSを使ったコミュニケーションでトラブルに巻き込まれる



トラブルに巻き込みやすい関係として、支配的・被支配の人間関係を言語分析・行動分析することで把握できるかもしれません。



インターネットを使った犯罪の分析に貢献

- SNSコミュニケーションの影響の大きさ



顔が見えないコミュニケーションだからこそ、勝手に受けて側が都合よく想像してしまうので、容易に悪い方向へいきやすいです。



インターネットリテラシー教育に貢献

#### その他の研究テーマ

- 保育士支援に関する研究
- エンカウンターグループに関する研究
- Person-Centered Approachに関する研究